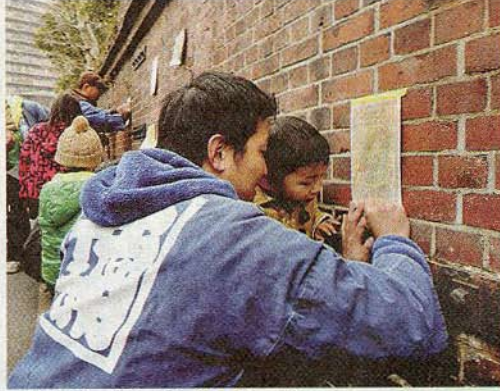


南千住の街の記憶こすり出し



「フロッタージュ」の技法を用いて、昨年度の登録文化財となった千住製絨所（せいじゅうしょ）の煉瓦壁の凹凸をこすり出すプロジェクト参加者たち
〓荒川区で（海老江さん提供）

五感で楽しめた！

神社の石畳や工場の募の中から選ばれた。床など、街を象徴する。この賞は、騒音、振動、悪臭などの「感覚物の上に置いた紙を色鉛筆でこすって凹凸を削いで減らすことを出す技法「フロッタージュ」を用いて街の歴史を残そうという、荒川区南千住の有志による「町の記憶プロジェクト」が、環境省の賞「の審査員特別賞」の審査員特別賞に、全国四十七点の応募の中から選ばれた。

この賞は、騒音、振動、悪臭などの「感覚物の上に置いた紙を色鉛筆でこすって凹凸を削いで減らすことを出す技法「フロッタージュ」を用いて街の歴史を残そうという、荒川区南千住の有志による「町の記憶プロジェクト」が、環境省の賞「の審査員特別賞」の審査員特別賞に、全国四十七点の応募の中から選ばれた。

環境省の審査員特別賞に

百宏一さん（四）の協力で昨年七月に開始。二月までに地元小学生など延べ千七百人が約二千九百枚をこすり出した。受賞理由は「『触感』を生かすユニークさと、参加者の多さ」（同省担当者）。

プロジェクトを率いる「千住すみだ川」の海老江重光さん（三）は「アートとして始めたが、意外な点に着目してもらえて光栄。これを機に、より多くの人に参加してくれたら」と話していた。

（井上圭子）